

アウトソーシングをどう考える

高嶋 徹 公立山城病院

近年病院経営の手法としてアウトソーシングされる部門が大変増えています。PFI(Private Finance Initiative)と言う方法で運営される病院も出来て参りました。今後病院においてますますアウトソーシングとなる部門が増えてくるのではないのでしょうか。病院経営にとってアウトソーシングは簡単に経費を削減する手っ取り早い一番の方法であると思われます。しかしながら本当にアウトソーシングの集合体で病院運営が出来るのでしょうか。

何年も昔からチーム医療などという言葉が使われて来ましたがここへきてICT, NST, 糖尿病指導, 褥創対策, クリニカルパスなど本当にいろんなチームがたち上がって来ました。これらが外部派遣職員の方々に任せてしまって良いのでしょうか。院内検査室に派遣された臨床検査技師の方々もたくさんおられますが、いかがでしょう。

本当に病院や他の職員に対して本音で病院運営又は利用者のための発言が出来るのでしょうか。やはり外部委託の打ち切り, 実際雇用されている会社

のことを考えてしまい, 正しいことであっても声にできないことが少なからずあるのではないのでしょうか。医療チームは同じ立場の人間が集まることでベクトルを共有できお互いの垣根を破り発言し, 職域を越えた行動が出来るものであると考えます。

臨床検査においては一部検査センターによるプランラボやFMSなどの方式によりアウトソーシングされる所がまだ増えているようです。果たして病院経営にどれほどプラスになっているのでしょうか。実際メリットがあったという報告は殆ど無いように思われます。

我々は臨床検査技師であり臨床検査を必要とする方々により多くの項目をより早く届け, またそれぞれの検査がコストパフォーマンスの高い検査となるよう努力しなければならない。そうすることでアウトソーシングする必要もなくなってくるはずです。職場によっても, また立場もさまざまであると思いますが, それぞれの立場で臨床検査技師として最善を尽くすことが我々の使命であると考えます。